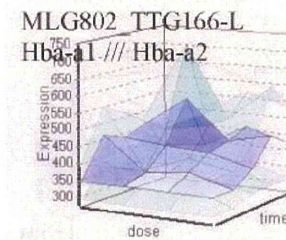
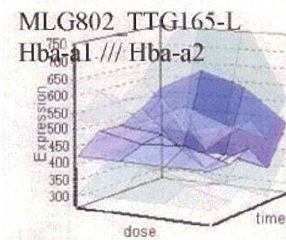
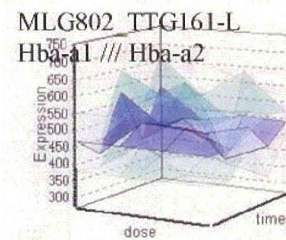
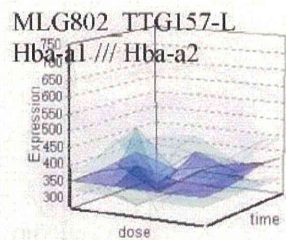
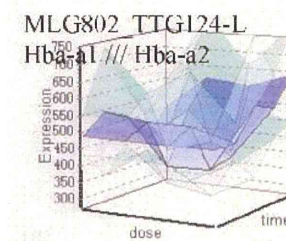
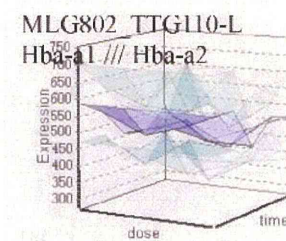
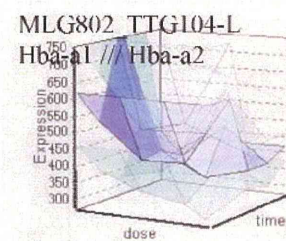
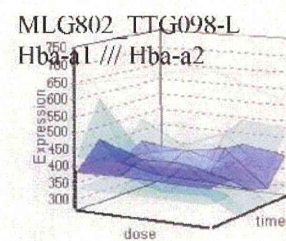
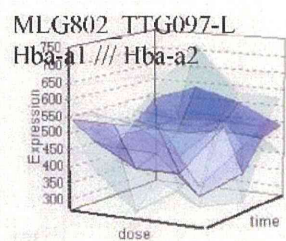
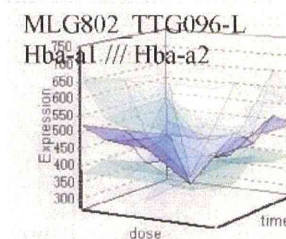
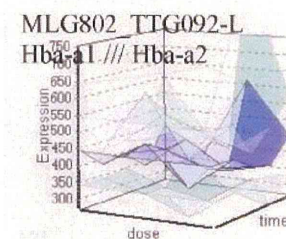
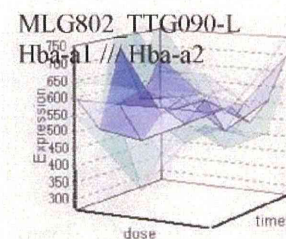
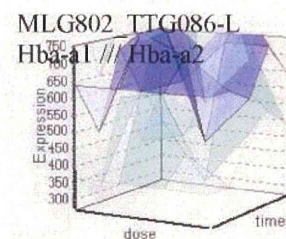
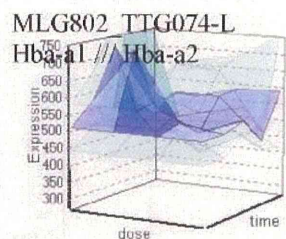
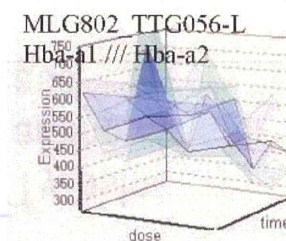
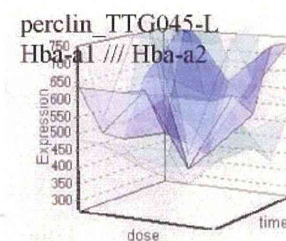
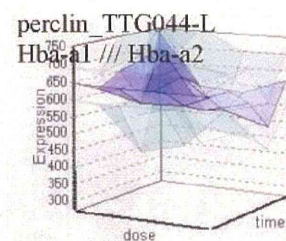
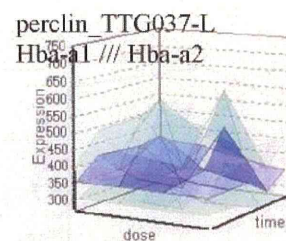
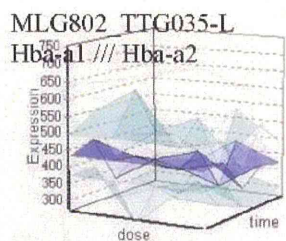
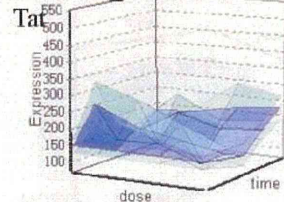


Scd1
ステアロイル-
CoA不飽和
化酵素1

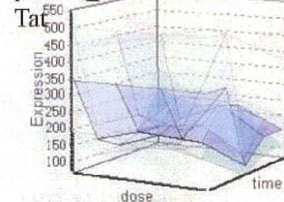


Hba-a1
Hemoglobin
alpha 1
血液関連

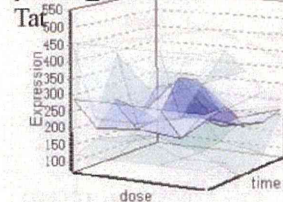
MLG802 TTG035-L



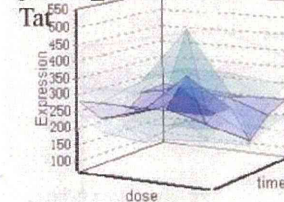
perclin TTG037-L



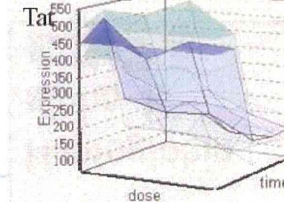
perclin TTG044-L



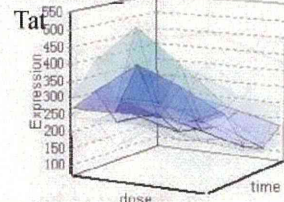
perclin TTG045-L



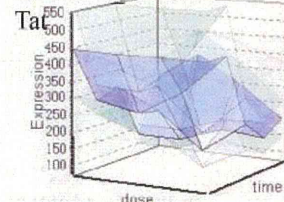
MLG802 TTG056-L



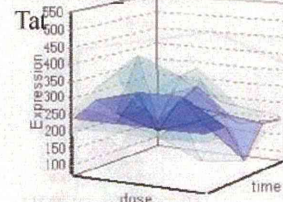
MLG802 TTG074-L



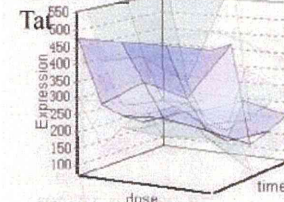
MLG802 TTG086-L



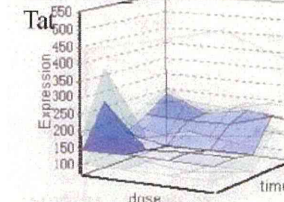
MLG802 TTG090-L



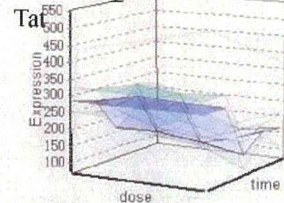
MLG802 TTG092-L



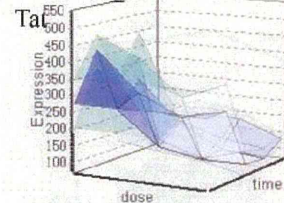
MLG802 TTG096-L



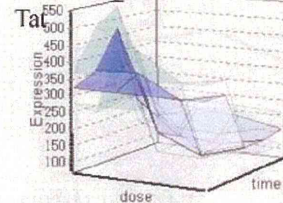
MLG802 TTG097-L



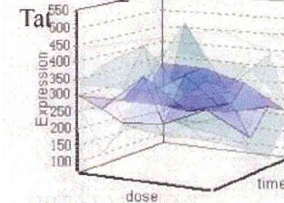
MLG802 TTG098-L



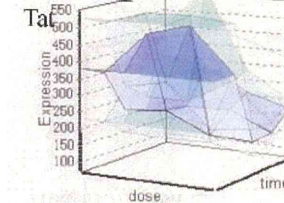
MLG802 TTG104-L



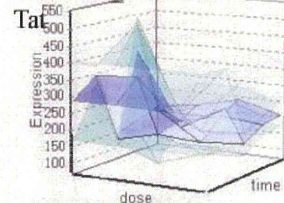
MLG802 TTG110-L



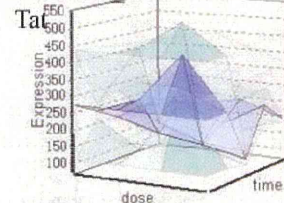
MLG802 TTG124-L



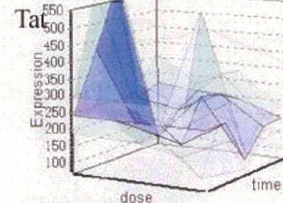
MLG802 TTG157-L



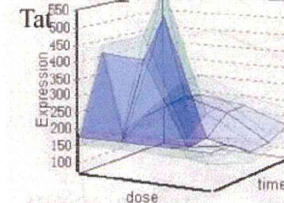
MLG802 TTG161-L



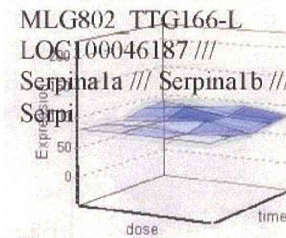
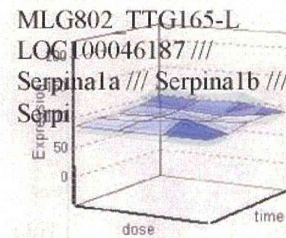
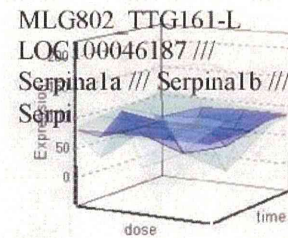
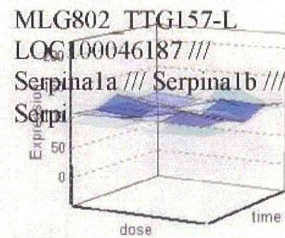
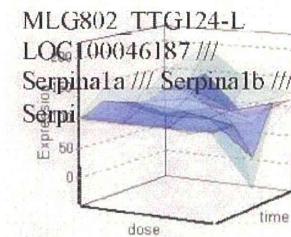
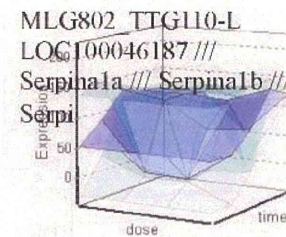
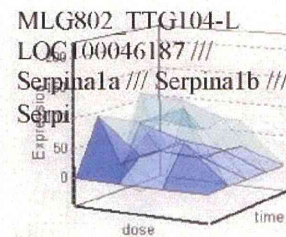
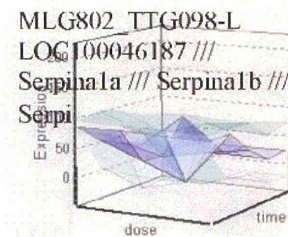
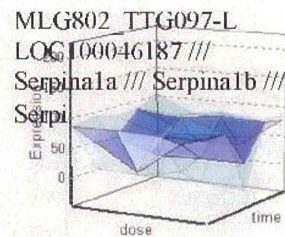
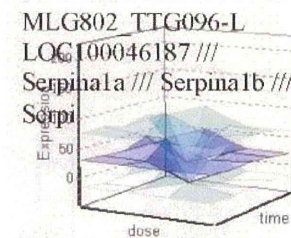
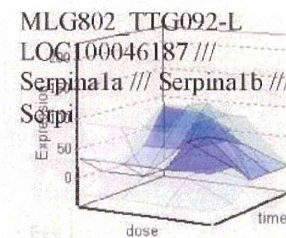
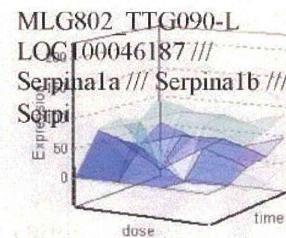
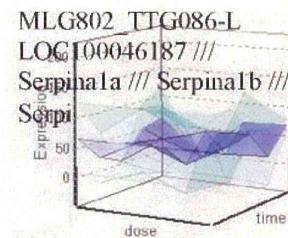
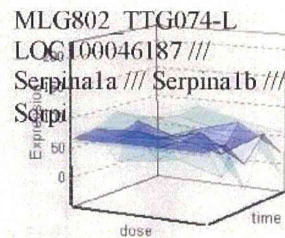
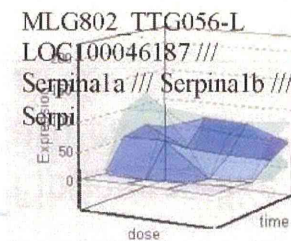
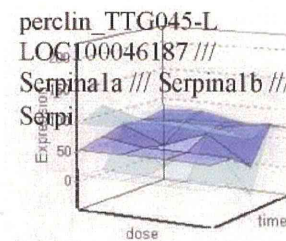
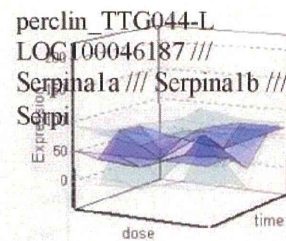
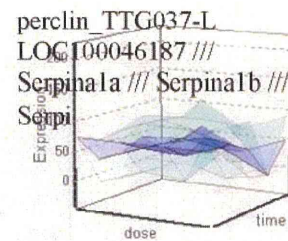
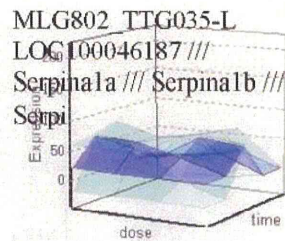
MLG802 TTG165-L



MLG802 TTG166-L

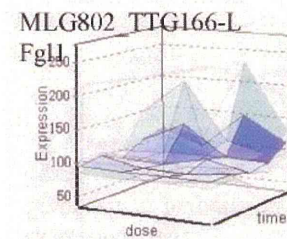
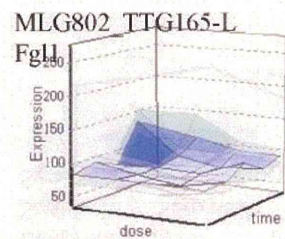
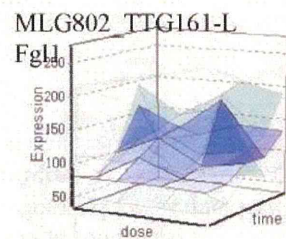
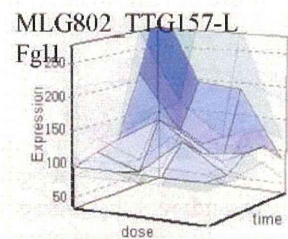
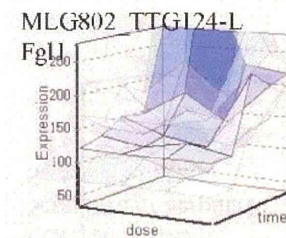
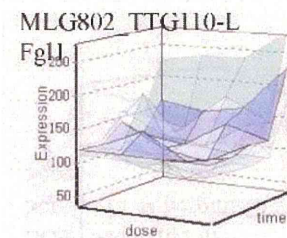
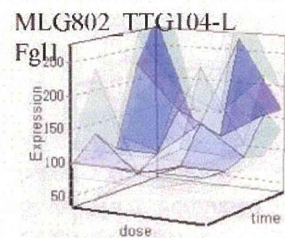
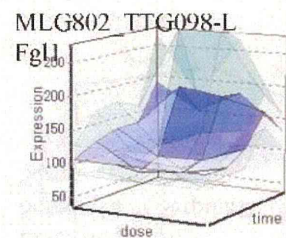
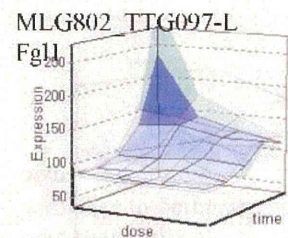
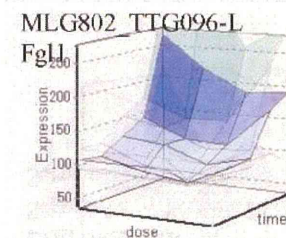
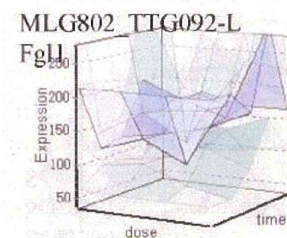
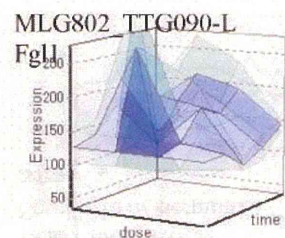
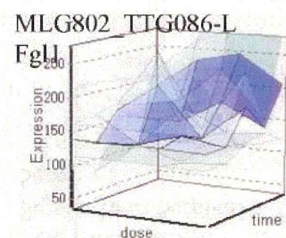
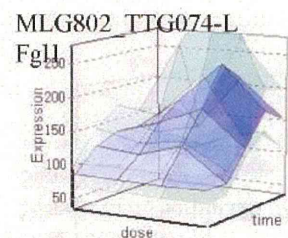
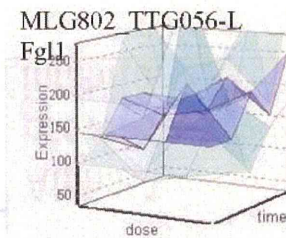
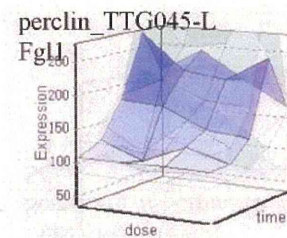
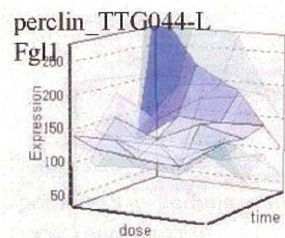
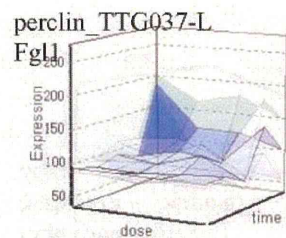
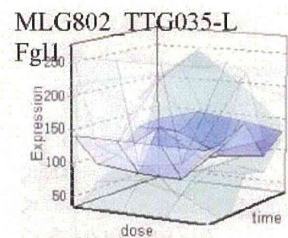


Tat
Tyrosine
aminotransferase



Serpina1a

**Alpha-1
protease
inhibitor**



Fgl1
Fibrinogen-like
protein 1
血液

4.5.化合物分類まとめ

- ・ プロジェクト間の隔たりを生み出す遺伝子として、Mt1やMt2などのMelatonin関連の遺伝子が含まれていた。これらの遺伝子は、プロジェクトごとに異なる概日リズムを刻んでいるような動きを示していた。また、血液関連や消化関連などの遺伝子の影響も推定された。
- ・ 化合物による影響を取り出すためには、これらの遺伝子のプロジェクト間の動き無視するような仕組みが必要であると考えられる。

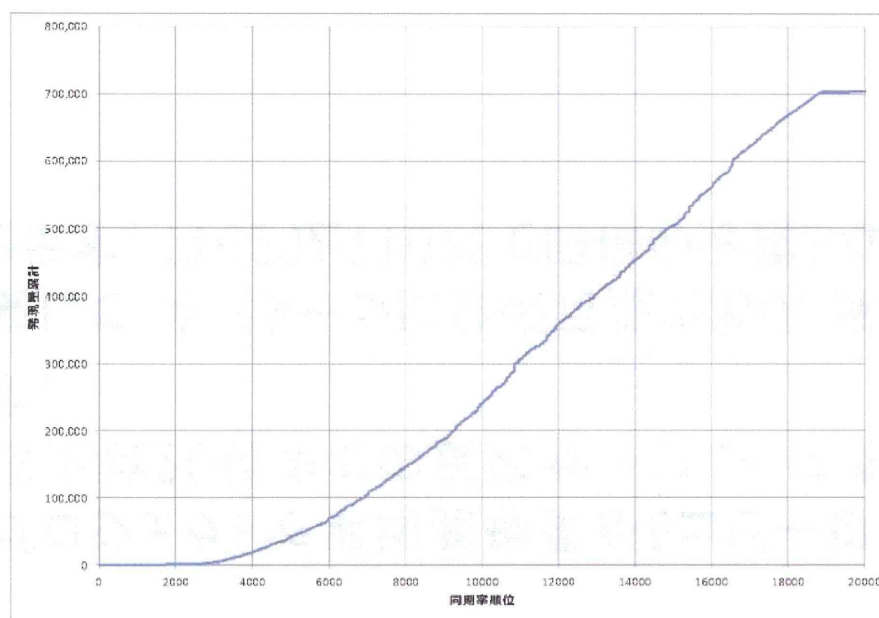
5.同期率計算

- MLANGの結果を用いて、同期率計算を実施した。
- 同一の遺伝子の下流にある遺伝子群は、化合物ごとに応答パターンは異なるが、同一のグループを形成すると考えられる。そこで同期率計算によって、異なる化合物でクラスタリングを実施したとしても、同じクラスタに分類される遺伝子を抽出する。
- 平成22年度研究の成果のゼロ発現遺伝子を除外し同期率計算を実施した。
- 以下に対象とする4化合物を示す

Project Name	化合物	Vehicle
TTG020-L	TCDD	corn oil
TTG026-L	TCDF	corn oil
TTG047-L	Bisphenol A	DMSO 0.1% + MC 0.5%
TTG048-L	Genistein	DMSO 0.1% + MC 0.5%

5.1.同期率計算結果

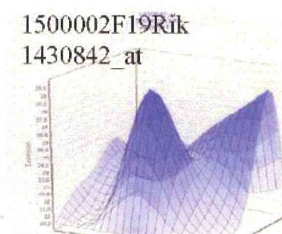
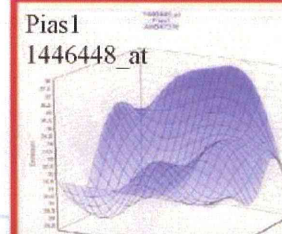
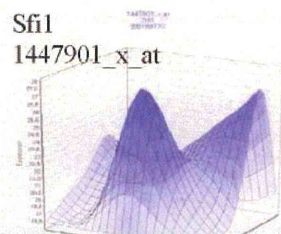
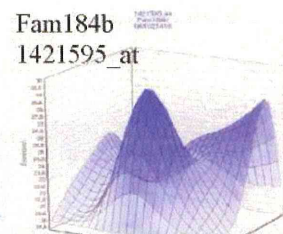
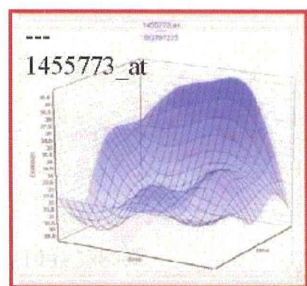
同期率の高い順に、発現量を累積したグラフを示す。



最上位は、発現量が0に近く、ゼロ発現と思われる。ゼロ発現識別は、計算速度向上のためであり、本来の目的は達した。しかし、識別できなかった遺伝子が残っていたと考えられる。

5.2.1.同期率計算結果

- ・ 各プロジェクトで平均発現量が5コピー以上である遺伝子の同期率上位20位までの反応サーフェスを、TTG20とTTG26で示す。
- ・ 一見して、4パターンに分類可能であり、赤枠、青枠、緑枠、枠なしで示す。TTG20とTTG26で同様の分類となっていた



TTG020-L

